

Igroup communication

Special 07
2022年10月26日発行

一人ひとりの一隅を
照らし続ける。

【特集】

自立援助ホームへの
見学会

テンポラリーくもと

2号室11月1日開設

心理検査導入のお知らせ

NPO法人 アイグループ

〒816-0848 福岡県春日市白水池2丁目14
TEL:092-710-0013

www.npo-aig.jp



あすなろ荘様へ見学してきました。(ホームページより引用)

私達人間は生れ落ちる家庭を選べません。
安心できる家庭環境で生活できない子ども。
不適切な養育環境で生きなければならない子ども。
自分たちのせいではないのにそんな危うい立場で生きていかなければならない子ども達を、
そのままにはおけません。
彼らに困ったときに相談出来る「場」を。
もっと安定した職に就くためのサポートを。
専門家の手助けが必要となった場合の橋渡しを。
自立援助ホーム「あすなろ荘」、のスタッフ達はそんな決意のもとで活動しています。

ホームページを拝見して、実際にホーム内の見学をさせていただきました。“自立援助ホームを作るために建設されたホーム”とご説明を受けたとおり、生活の場にいくつもの工夫がされていて、ひとつひとつの説明に入居者への配慮があり、歴史あるホームのあり方を学ぶことができました。
住宅街に馴染んで木々が実り隣には遊具もあり、ホーム外でも気を紛らわす場所もありました。
玄関には風除室があり進むとリビングとキッチンと相談室の空間に入ります。

あえて見えない範囲を設けて視線を気にすることなく寛げる配慮がありました。
色々なものはありましたが整頓されていて、読書や鑑賞・楽器演奏やクッキングなどいつでも利用しやすい空間でした。
洗面も複数個所あり1階の個室と2階の個室には鍵も付いていて入居者の安心が確保されていました。個室内は収納スペースもあり居室内の広さも広すぎず適度でした。
あまり広すぎると寂しく感じることへの配慮が伺えました。
また滞在中の入居者への声掛けも職員から自然な感じで事務的な施設感はなく家庭的な雰囲気でした。
うちのホーム(当法人)にいるような落ち着いた雰囲気時間が過ぎるのがあっという間に感じました。
ホームが作成している通信誌や約束事を確認させていただきました。
約束事は1枚にまとめられていますが、ひとつひとつに工夫されてきたことが分かる内容でした。
なるほど?!と学ぶことがいくつもありました。
また、入居時には部屋を空っぽにして室内の物を揃えることから始めて、退去時はすべて持ち出していたく。
これはあたりまえのようで、簡単にはできない対応です。
自立に対する取り組みが徹底されていることが伺えました。

社会福祉法人「子供の家」運営 自立援助ホーム あすなろ荘

〒204-0022 東京都清瀬市松山3-12-14
Tel:042-492-4632

アフタケア相談所

ゆずりは様へ訪問してきました。

まず初めに大変ご多忙の中、貴重なお時間をいただけたことを感謝いたします。
調整をしていただいた協議会事務局の恒松様 ありがとうございます。
高橋亜美様から、ゆずりはの活動について教えていただきました。高橋様は“プロフェッショナル”にも出演されていて、アフタケア分野を切り拓いてこられた第一人者であると認知していました。私の妻は“ゆずりは”の取り組みを知っていて、手作りジャムを購入したり、ゆずりはの活動内容に共感をしていたようです。

当法人ではアフタケアについては、検討したことはありますが取り組んでいません。対象者とつながり続ける為の活動は、容易にできることではないと理解しているからです。

What is yuzuriha?

ゆずりはとは

ゆずりはでは、児童養護施設や里親家庭などで生活していた人、虐待や支配などの理由から親や家族を頼ることができない人から様々な相談を受けています。「どこにも帰る場所がない」「借金がある」「家族やパートナーから暴力を受けている」「保証人がいない」「妊娠をした」など、一人でも対応していくにはとても難しい困難や問題を、一緒に考え、整理したり、手続きするサポートしています。その他、気軽に集えるサロン、一緒に働くゆずりは工房、高卒認定の学習会、虐待に至ってしまった親へのプログラム(MY TREEプログラム)、などを行っています。

Start

ゆずりはのはじまり

ゆずりはは、児童養護施設や里親家庭など社会的養護のもとを巣立ったひとたちを対象にした相談所です。2011年の4月に開所しました。運営母体は児童養護施設と自立援助ホームを運営する社会福祉法人が担っています。私たちがゆずりはを立ち上げるに至った背景には、自立援助ホームのスタッフをしていた頃に出会った子どもたちの存在があります。(自立援助ホームを利用する子どもたちは、なんらかの理由で親元を離れなければならない、自ら働き収入を得て生活を担っていきます。自立援助ホームの利用は義務教育終了後の15歳から20歳まで(場合によっては22歳)が対象になっており、就労や通学をしながら安定した生活を目指しています。)自立援助ホームに辿り着いた多くの子どもたちが虐待や貧困家庭で暮らしてきた子どもたちでした。「死ぬことができなかったから」「家に帰って親に殴られるよりはまし」「援助交際をやり続けるよりは、ここでいい」など、自ら望んで入所してくる子どもは1人もおらず、生きていく場所として自立援助ホームにたどり着いた子どもばかりでした。

ホームページより

社会福祉法人「子供の家」運営 アフタケア相談所 ゆずりは

〒185-0011 東京都国分寺市本多1-13-13
Tel:042-315-6738



丸亀街づくり研究所の基本的理念

『共に育ちあい、自分らしく生きていく』。
人と人との繋がりを大事にしていきながら、児童それぞれの夢を
実現していくことができる法人になることを目指しています。

若者独立塾 丸亀おひさま荘様へ見学に伺いました。

『生まれてきた命、これまで育ってきた生い立ち、これから生きていく人生を意味する「いのち」の中で、自分が大切な存在であることを知り、自分の意志で考えて行動する力を高める。周りにいる全ての人の気持ちや想いを繋いでいくことで、「共に育ちあい、自分らしく生きていくこと」を目的とするNPO法人丸亀街づくり研究所さんです。自立援助ホーム2か所とアフターケア事業所の計3拠点を運営されています。

「丸亀おひさま荘では、一時保護から入所そして退所後のあらゆる年齢の利用者の自立支援を行います。1歳から18歳までのお子さんに関して、短期間のお預かりにも対応しています。」

「いのちに寄り添い心をつなぐ」を经营理念とし、生活・学校・就労において、子どもたちの自己実現を支援するNPO法人丸亀街づくり研究所さんが運営されている自立援助ホーム 「若者独立塾 丸亀おひさま荘」を見学させていただきました。
香川県丸亀市土器町にある定員6名の自立援助ホームで、周

囲は閑静な住宅街の中にあり、交通も便もよく落ち着いた環境でした。

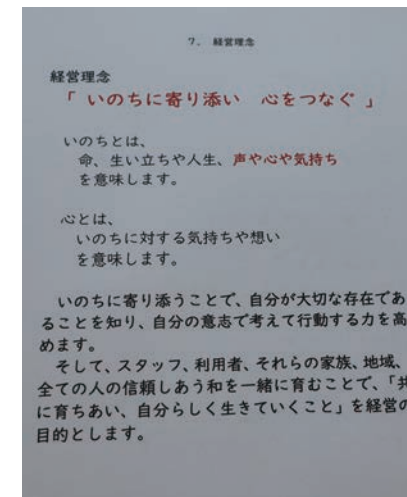
ホーム内は広々としており、リビングは大きなダイニングと和室という風に分かれており、開放的な空間でした。自立援助ホームの中でも、稀にみる広さでとても過ごしやすそうな印象を受けました。低年齢のお子さんまで受け入れ可能とのこと、幼児に向けた部屋やおもちゃ等も完備されており、安心して児童を預けられる環境が整えられていました。

このように、高齢児の一時保護と長期的な支援に加え、幼児等のショートステイにも力を入れられており、幅広い年齢の利用者に対応されていたりしました。それぞれの年代に対し、細かく丁寧な支援をされて関わられている様子が伺えました。

幅広いそれぞれの年齢の方に合わせた包括的な支援の在り方について、とても勉強になり、大変参考になることばかりでした。お忙しい中、見学にご対応下さった丸亀街づくり研究所のみなさまへ、この場をお借りして、心よりお礼申し上げます。

NPO法人丸亀街づくり研究所 若者独立塾 丸亀おひさま荘

〒763-0082 香川県丸亀市土器町東8丁目463番地1-2階
Tel : 0877-85-3323／Fax : 0877-43-6929



自立援助ホーム nature - なちゅれ - 様へ 見学に伺いました。

Natureでは、自分らしいライフストーリーを
作り上げていくために成長に合わせて
暮らしに必要な目標を立て、生活をしていきます。

その中で、香川県丸亀市土器町にある定員6名の自立援助ホームである「nature -なちゅれ- 」に伺いました。
丸亀市内に位置しており、駅や飲食店やお店も近くにあるため、交通の便も児童の就労先も充実している環境でした。
ホーム内とても明るく家庭的な印象を受けました。自室で過ごしていた児童が、見学の様子が気になり、時折リビングを覗きに來ており、その際に児童と職員さんとの楽しげな掛け合いが見られました。ホーム全体のあたたかい雰囲気が伺えました。

「生きる力や生い立ちをありのままに受け止め信頼し合う和と一緒に育む」という考えのもと、児童たちがのびのびと安心して過ごせる環境が整っているように感じました。
今回の見学を通して、今後も都道府県の垣根を越え、自立援助ホーム間で定期的な交流を図り支え合いながら、子ども達の支援を行っていかれたらと思いました。

NPO法人丸亀街づくり研究所 自立援助ホームnature -なちゅれ-

〒763-0082 香川県丸亀市土器町東7丁目208番地
Tel : 0877-85-3375／Fax : 0877-85-3376



青少年自立援助ホーム ふくろうの家様へ見学に伺いました。

今回見学に行かせて頂いたのは、北海道函館市的場町にある女子を対象にした定員6名の自立援助ホーム「ふくろうの家」です。閑静な住宅街にあり、通勤・通学にもとても便利な場所にありました。建物内の物理的環境についても、広々として落ち着いた素敵な空間でした。

リビングには大きなグランドピアノが置かれ、正面には広々としたリビングと大きな階段がありました。その大きな階段上のスペースを使い、ホーム内でコンサートを開催されることもあるそうです。見学終了後、児童らが明るく元気に挨拶してくれたことがとても印象に残りました。限られた時間ではありましたが、児童がのびのびと過ごしながらも、挨拶といった基本的な生活習慣を身に着け、しっかりと社会生活を営んでいる様子が感じられました。

見学の際には、高橋氏より大変貴重なお話を伺わせて頂き、や

はり丁寧な生活の営みの中で、子どもたちの自主性と主体性を尊重しながらも、真摯に向き合うことの大切さをお教え頂きました。安心して暮らせる生活環境を保障し、長期的な視点で利用者の繊細な変化や緩やかな成長を感じ取ること、退所後もホーム自体が心の基地となり得るかどうかの視点が重要であると改めて考えさせられました。利用者と会話や日常でのやりとりを通し、「聴く」ことの重要性も再度認識致しました。利用者自身が孤立せず他者にSOSを発信できるか、相談につなげる力の重要性(受援力)の大切さについても、考える機会となりました。

今回の見学を通して、改めて自立援助ホーム内で、日々児童と過ごす「生活」を見つめ直すきっかけとなりました。

高橋氏をはじめとするふくろうの家の方々、この度はお忙しい中、貴重なお話の機会を頂いたこと、厚く御礼申し上げます。

ふくろうの家の由来

ホームがおふくろう(ふくろう)のような温かい場所、またいつでも帰ってくる場所(復路)になり、入居者がこれからは苦勞せず(不苦勞)幸福(福ろう)になりますように、との思いが込められています。

家庭基盤の脆弱さや家庭そのものが崩壊し帰る場所をなくした青少年の「生きづらさ」を目の当たりにし、心のケアと自立に向けての支援の継続の必要性を痛感され、2005年に自立援助ホーム「ふくろうの家」を開設されています。

NPO法人青少年の自立を支える道南の会 青少年自立援助ホーム ふくろうの家

〒040-0021 北海道函館市的場町16番地8-2
Tel&Fax:0138-54-6844



神奈川県自立援助ホーム 湘南つばさの家様へ訪問してきました。

訪問日前日に厚生労働省へ政策提言を提出いたしました。厚生労働省との窓口を担当しているホーム長であり協議会では副会長を務めている方です。

昨年からは協議会役員を務めはじめて色々な意見を聞いていただきました。

対面でお会いするのは、数年前に東京ビッグサイトにて開催されたホーム長会以来でした。

これまで制度政策を支えて毎年何らかの制度緩和を獲得してきた経験を共有させていただきながら、自立援助ホームの歴史についても教えていただきました。

今後引き継がれる内容も何うことができて、精一杯務めていきたいと思います。

ホームは住宅街にあり海も近くコンビニやスーパーも徒歩圏内にあり利便性も良い。

玄関までの庭には花や植物があつて駐車場や駐輪スペースも確保されていました。

ホーム内に入り、リビングへ案内いただき、意見交換をさせていただきました。

訪問した時はカブトムシ等を飼育している様子や、キッチン周りが整頓されていることから家庭的でくつろぎを与える空間づくりに力を入れていることが伝わりました。

スタッフルームや、住み込みで過ごされているご夫婦の部屋や入居者の居室数を伺い内覧できる場所は見学させていただきました。

見学中に利用者との接している様子をみていると家庭的な雰囲気伝わってきました。

社会福祉法人白十字会林間学校 自立援助ホーム 湘南つばさの家

〒253-0022 茅ヶ崎市松浪1-12-17
Tel:0467-58-6260 / Fax:0467-58-6260 / メールアドレス:shonan-tsubasa@marble.ocn.ne.jp



和歌山県の自立援助ホーム わだちの家様へ訪問してきました。

和歌山県の自立援助ホームへ訪問してきました。
和歌山駅から車で15分程度、関西空港からも1時間以内で市内の住宅街にある自立援助ホーム「わだちの家」平屋で玄関横にスタッフルームがあり、正面にダイニングテーブルが3つくらい置けそうな広いリビングとキッチンがあり、個別に利用できる席も配置されていました。
料理も品数が多くボリューム感もあり成長期の男の子も満足するような感じでした。
食事の時間になると自然と各部屋から入居者が集い家庭的な団らんがありました。

食事の時間を見るとホーム内の関係性や良好な支援が行えているか良く分かるのですが、「わだちの家」はとても上手く支援が行えているホームだと感じられました。
食卓の話題も色々と飛び交って賑やかで温かい雰囲気でした。ホームを退所した子が職員として働いていたり、近くのステップハウスを利用している子がいたり、ホームの歴史と築き上げた実績を体感することができました。

**安心して! ここはあなたのホームです。
あなたはかけがえのない私たちの家族です。**

「わだち(轍)」には、子どもたちが人生に深く力強い轍を残しつつ、まっすぐ前を向いて歩いてほしいという願いがこめられています。また「わ」は和歌山を「だち」は友達のだちを表しています。

特定非営利活動法人トレス 児童自立援助ホーム わだちの家

〒640-8471 和歌山市善明寺13番地
Tel & Fax: 073-419-0888 / E-mail: wadachinoie@yahoo.co.jp



自立援助ホーム みなこホーム様に見学に伺いました!

宮崎県延岡市野地町にある男女共同のホーム、みなこホームに伺いました。小高い坂を登った先にある大きな建物で、玄関のなだらかなスロープが印象的でした。
定員は6名、主に18歳から22歳を対象としたホームで、九州保健福祉大学に通える制度があるなど、就学にも力を入れていると伺いました。
対象年齢が比較的高いためか、落ち着いている児童が多いと伺いましたが、建物としても、リビングの広さやすべてが個室であ

ることなど、ゆとりを感じられました。退居後の支援についても考えを巡らせていらっしゃる、建物の大きさという強みを持って、独自のサポートを展開されていくのではないかと思います。
対象年齢、男女共同、建物の広さ等々、様々な面で刺激を頂けた見学になりました。これからも同じ九州内のホーム同士、連携をはかりながら、ひとりでも多くの子どもが自立していけるよう、支援していきたいと思っています。

社会福祉法人石井記念友愛社 自立援助ホーム みなこホーム

〒882-0802 宮崎県延岡市野地町2丁目3925番地117
Tel: 0982-20-4811 / Fax: 0982-20-4815 / E-mail: minakohome2020@yahoo.co.jp



奄美大島にある自立援助ホームへ訪問してきました。

世界遺産となった奄美大島にある自立援助ホーム「青空ホームあまみ」「さざ波の家・奄美」市内中心にあって通勤等も通いやすい住宅街にありました。両ホーム共に建物が大きく社宅や学生寮のような空間で、居室内も広くプライバシーが確保されている環境でした。団らんやくつろぎの為のリビングは2か所あり入居者が過ごしたい場所を利用しやすい工夫がされていました。

さざ波の家・奄美の隣には合気拳法の道場があり、こも法人が運営していてホームに利用している子は利用できるよう。三浦所長から歴史を教えていただく中で、更生保護施設のような支援を行えていることに驚くばかりでした。経験と強い想いがあるからこそ支援の実績なのだと感じました。私たちのホームでは対応できていないケースの子も、ここなら安心して利用を紹介できるホームでした。

「青空ホームあまみ」ホーム長 三浦様より

家庭や周囲との環境において疎外感を抱き、さまざまな理由により自立困難な環境に置かれている子ども達がたくさんいます。

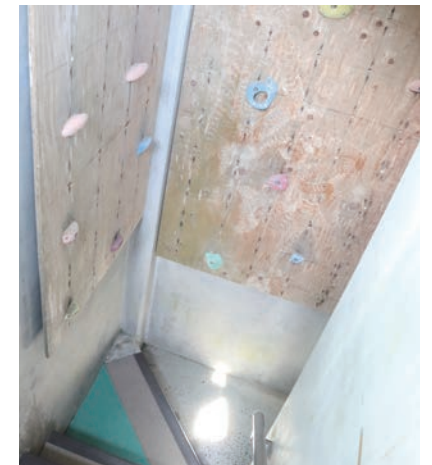
奄美の美しい自然や温かい地域社会との繋がりに触れ合いながら、ぬくもりのある家庭的な居場所を提供し、自立を促したいという思いで、奄美にて第2号となる自立援助ホームを開所することになりました。

私たちが当たり前すぎて考えもしないことの意味を子ども達は触れ合いの中で見出してくれます。毎日が気付きと学びの連続です。さまざまな境遇に置かれてきた子ども達。「ただいま」の声を笑顔で迎える、温もりのある安んじたホームでありたいと思っています。

社会に出て自らの力で人生を切り拓き、輝ける日々を送れることがスタッフ一同の大きな願いです。そのために一緒に頑張って困難に向き合い、一歩一歩前へ踏み出していけるよう手を取り合って支援を行っていきたいと思います。

NPO法人奄美青少年支援センター ゆずり葉の郷 自立援助ホーム 青空ホームあまみ

〒894-0041 鹿児島県奄美市名瀬朝仁新町13-7
Tel & Fax: 0997-53-8800 / E-mail: aozora-amami@aiores.ocn.ne.jp



青少年の健全育成を目的に2000年(平成12年)にボランティア団体として設立され、翌2001年(平成13年)に特定非営利活動法人(NPO法人)として認可された団体です。名称は特定非営利活動法人 奄美青少年支援センター「ゆずり葉の郷」です。現在、奄美市名瀬長浜町にゆずり葉の郷本部事務所、兼奄美合気拳法道場があります。「ゆずり葉の郷」の活動の始まりは1981年(昭和56年)にさかのぼります。当時、大島地区消防組合名瀬消防署に勤めていた三浦一広は、たまたま二人の非行少年と出会い、声を掛けたの

がきっかけで、非番の日に夜の街を徘徊している少年少女たちに声を掛け始めました。もともと格闘技が好きだった三浦はさまざまな格闘技を組み合わせた新しい格闘技として1983年(昭和58年)仲間たちと「合気拳格闘術同好会」を発足させ、公民館などで稽古を始めました。1988年(昭和63年)4月、「奄美合気拳法連盟」を結成。規約や役員などを決め、組織の充実を図りました。この活動が現在も続いています。

「さざ波の家・奄美」ホーム長 松下様より

さざ波の家・奄美は、様々な荒波を経験した子ども達が入居後にはさざ波のように穏やかに生活が送れるようにと知付けたホームです。

名前の由来通り、一人ひとりに合った対応をバ掛けており、家庭的な支援を行っています。スタッフ一丸となって、子ども達の将来を我が子の様に考え接しています。ここで生活していくと自然と言葉や表情が豊かになり、自己肯定感や向上心をも持つ子ども達が多いです。

理由はあるにせよ、同じ境遇の子ども達が生活するわけですから、ホームでも色々な経験をします。たった一度の人生です。喜怒哀楽を親身になって傍で支えていきたいと思っています。

NPO法人奄美青少年支援センター ゆずり葉の郷 自立援助ホーム さざ波の家・奄美

〒894-0036 鹿児島県奄美市名瀬長浜町22-6
Tel: 0997-69-3373 / Fax: 0997-69-3374 / E-mail: sazanaminoie@hb.tp1.jp

テンポラリーくまもと 2号室を開設いたします。

2022年3月にテンポラリくまもとを開設いたしました。

その後、男女ホームで満床になり、問い合わせが続いている状況もふまえて、開設から計画していました2単位目の開設を進めています。

3LDK×3室で1棟の物件を全室賃貸して、2室を利用して1ホームを運営していました。

1部屋は2名の入居者が利用できる㎡を確保していて、1部屋はロフトも付いていることから、1室6名定員で利用することができます。

1室6人を2室12人の定員へ増員することも考えましたが、これでは職員配置を増やすことができません。

行政との協議を重ねて、1拠点で2単位を認めていただき、2ホームの運営を行う承諾を得ることができました。

利用が増えることも想定して、男女ではなく女子ホームのみへ変更を行い、受け入れを再開いたします。

すでに入居していた男子は、同法人が運営する男子ホームへ移動を勧めて対応する予定です。宿直の体制も強化できる狙いもあり、利用者にとって安心安全な居場所づくりの活動に取り組んでいきたいと考えています。

今後も新たな提案や取り組みに挑戦していき、関わる方の心を豊かにできるよう努めていきたいと思ひます。

今後ともご支援いただけますようお願い申し上げます。

心理検査を導入いたします。 (検査費用は無料です。)

この度、当法人では心理検査を導入することとなりました。これまで心理検査の必要性を感じる事が多くありましたが、資源の不足や経済面の問題もあり、他機関で心理検査を受けることは難しいのが現状でした。そのため、法人内でも心理検査が実施できれば、より適切な支援につなげられると考え、心理検査を導入致しました。心理検査にはいくつか種類がありますが、当法人では、知能検査(16歳以上)と性格検査を導入致します。

自立援助ホームの利用者の中には、虐待などの厳しい環境の中生きてきており、家族の元から逃げることで精いっぱい、適切なアセスメントがなされていない利用者もいます。適切な支援をしていくためにも、まずは本人の特徴をアセスメントすることが大事です。心理検査を実施することで利用者の理解が深まればと思います。

利用者の中には高校生や大学生が多いため、学校で勉強についていけず本人も困っている場合があります。心理検査を実施し、本人の特性を理解し、本人にあった学習のレベルや学習方法を見つけていきたいです。また、働いている利用者に対しても、就労が継続できない場合に、本人にあった働き方や働く環境を見つけるのに役立ていければと思います。その他にも、対人関係が上手いかない場合や生活面が安定しない場合などに、選択肢の1つとして心理検査を導入したいと思ひます。

まずは法人内での利用者に対して、必要に応じて心理検査を実施しながら、他の自立援助ホームや児童養護施設など、地域のコミュニティーに対しても無料で実施していければと考えております。

当法人は心理士が常勤で在籍しているため、その強みを生かし、心理検査を実施することで、利用者のより専門的な支援につなげていけたらと思います。

子どもたちの自立を
家族のように支援する、
プロフェッショナルたち。



5周年を記念して法人の ホームページを開設いたします。

5周年を記念して、現在ホームページを作成しております。

トップページには、今日過ごす居場所に困った方が問い合わせできるページや、困りごとの相談できるページや、寄付品などの提供情報を問い合わせできるところから、法人の取り組みや各施設の内覧様子を動画で確認できるページなども作成いたしております。

過去の通信誌や法人案内・事業所リーフレット、事業報告書等も確認できるようにしています。

支援のお願いもクレジットカード等で手続きが行えるように作成を行っています。

LINEをスマホに入れている方からは、無料通話でスマホから問い合わせできるように工夫をしています。

お知らせなどで各施設や法人の取り組みを更新していく予定です。
ひとりでも多くの方に、活動を知っていただけるように取り組んでいきたいと考えています。
近日公開予定となりますので、ご覧いただけると嬉しいです。

www.npo-aig.jp



えん

自立援助ホームえん

資金援助をいただき、浴室や洗面所を 改装することができました。

えんは開設後個室化を行うことはできていましたが、浴室や洗面所、トイレなどは築数十年前のままで狭く小さな環境でした。

5年かかりましたが今回寄付なども集めて法人から資金援助をいただき、改装することができました。

子どもたちは喜んでいて、職員も掃除や片付けがしやすくなったという声を聞くことができました。

将来、えんは自立援助ホームではなく、ここに利用者だった子が共同生活を行えるシェアハウスへ変えていくことも法人として検討しています。シェアハウスの住人が家賃を分け合って支払っていければ実現可能であると考えています。

それまでに、現在の大家様から譲り受けられるように寄付などを募る等も検討したいと考えています。

施設内でバーベキューをした様子の写真を共有いたします。

みんな楽しそうに参加していました。



ラブ

自立援助ホームラブ

七夕飾りをしました。
職員の願い事は『健康第一』です。

暦の上では秋となりました。まだまだ残暑厳しい日もあり、外から帰ってきた児童の開口一番は「暑っ」。職員もまず水分補給して涼しくするように促しています。しかし、さすが若者は元気。今のところ体調不良もなく、元気に活動しています。
さて、7月にラブでも七夕飾りをしました。現実的な願い事が多く、今まさに願いを叶えようと頑張っている最中です（他ホームで願い事が叶っていると聞いたので、ラブでも神様の助力があることと期待しています）。職員は七夕ゼリーを用意したのですが、児童たちがダイエット中で食べてもらえず残念……（次のイベントこそはと思います）。



ちなみに職員の願い事は『健康第一』です。社会生活に必要な資本は健康と体力だなあ、などと考えることが増えてきました。しっかり児童の健康面もサポートしていきたいです。

庵

自立援助ホーム庵

なんと庵の七夕の願い事は
全て叶うという奇跡も起きています。

暑さも少し和らできました。近年、心配される大雨ですが、この夏は大きな災害もなく子どもたちが安全に過ごせてほっとしているところです。庵の夏は、七夕と誕生日会がありました。七夕が近くなると笹を用意してくださる方がいて、皆で毎年願いを書き飾っています。今年は、新たな発見がありました。男子ホームのため折り紙が得意な子はいないだろうと思っていたのですが、職員が折っていると「自分もやる」と一人の児童が折り紙を折り始めました。「出来た!」と完成品を見ると、完成度の高い奴さんでした。新たな発見とは手先がとても器用だということです。折り紙を折る時とても集中していて、集中力がある事も発見でした。いつもスマホを手放さず一日中スマホをしている子だったので折り紙が得意だとは想像もできませんでした。年間を通して様々な行事を行っていますが、何気なく行っている中でも子どもたちの特技や話題のきっかけになり、行事を通してその子たちの想いを知ることができ素晴らしい機会になっています。そして、なんと庵の七夕の願い事は全て叶うという奇跡も起きています。来年も



楽しみです。
誕生日会は19歳のお祝いでした。この子が入所して二回目の誕生日会です。一緒にお祝い出来ることは本当に嬉しい事です。来年は20歳で退所の時期にもなるため誕生日会を庵で行えるかはわかりませんが、しっかりと自立してどこにいても誕生日を迎える喜びを感じて欲しいなと願っています。次の七夕の願い事が一つできました。

テンポラリくまもと

テンポラリくまもと

自立へ向かうために本児が落ち着いて
生活ができるように支援を行っていきたいと思います。

現在男子1名、女子3名が入所しています。開所して5か月が経ちました。日々、各児童色々なことがあります、一人一人と対話を行いながら支援しています。
入所して4か月が経つ男子がいいますが入所当初から1か月が経過したところから、虚偽の報告ややくそくことが守れない日々が続き職員間でも情報の共有を行いどのような対応で接していくことがよいのか等話し合いを重ねました。本児ともその都度話をし、これからどのようにしていくことが自分にとっての自立へ向かうことができるのかと対話を重ねていくうちに生活態度が落ち着き、行動と言動が伴うようになってきました。まだまだ自立へ向かうためには本児が学ぶことはたくさんあると思いますが落ち着いて生活ができるようにこれからも支援を行っていきたいと思います。

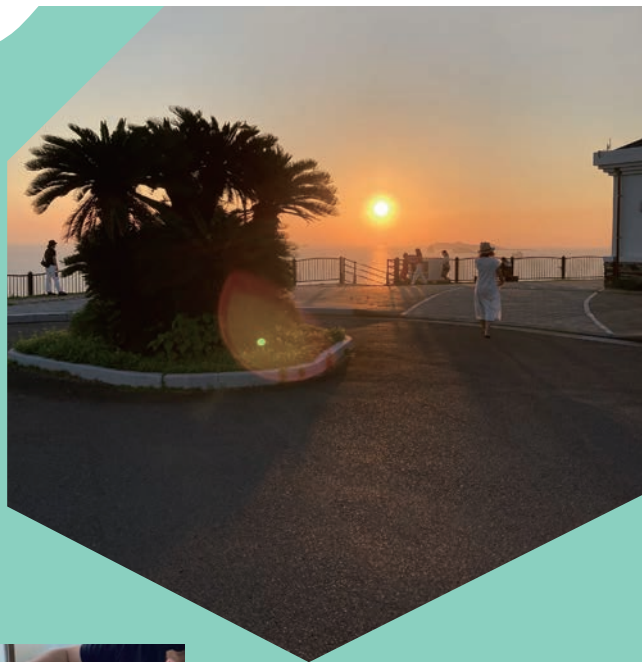


inn

自立援助ホームinn

1月に入所してきた児童も、だいぶホームの
生活や職員にも慣れてきたようです。

自立援助ホームinnでは、1月に入所してきた児童も、生活をスタートして半年を過ぎ、だいぶホームの生活や職員にも慣れてきたようです。その時間の流れと共に、様々な課題も出てきて、職員同士の共有を工夫しながら、対応を思慮しています。
児童の特性をどのように理解し、どのように対応していくか、どのように話したら、児童が理解をしてくれるのか、向き合って話をしようとする回避しようとする児童と、どのように話をしていくのか、職員同士で意見を出し合いながら、様々なことを考えています。
また、児童が自分の将来へのビジョンを持てることは、一つの希望になると思うのですが、どうやって将来を考えていけるように促していけばよいのか、とても難しい課題です。
焦らず、児童のあるがまを受け入れつつ、これからも児童が自立に向けて、自分で考えていけるように、職員も色んなことを学びながら、共有しながら、児童と生活していきたいと思います。

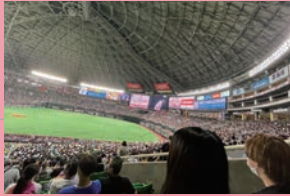


LUCK

自立援助ホームLUCK

過ごした思い出を
大切にしてもらえたら嬉しいです。

心地の良い青空が広がり、真夏の日差しが日々夏の盛りを感じさせます。子どもたちは夏休みになり、新しくアルバイトを始めたたり、少しのんびりとホームで過ごしたり、テストに向けて勉強を頑張ったりなど、個々に毎日を過ごしています。そんな中、野球観戦のご招待を受け、野球観戦に行ってきました。このようなご時世ではありますが、子どもたちと共に一つの思い出作りが出来た良い機会となりました。テレビで観戦するのとは違い、球場の雰囲気や歓声、応援団の音楽、普段味わえない空間に子どもたちもスマホ片手に写真や動画を撮ったりしていました。また、素晴らしいプレーやホームランが出たり勝利をおさめた瞬間には拍手をしたりととても楽しんでいました。コロナウィルスの影響もあり、ジェット風船の禁止やマスク着用のチェックの厳しさ等もありましたが、それ以上にお出掛け出来ることや、生で試合を観戦できる喜びを感じていたのではな



いかと思います。子どもたち同士も、好きな選手の話をしたりしながら、同じ時間を共有し楽しさと喜びを感じ分かち合い、それぞれの記憶に良い思い出として残ったのではないかと思います。これからも子どもたちと共に一歩ずつ進み、一つずつ思い出を作り、ふと立ち止まった時に「そういえばあんな楽しいこともあったなあ」と思い返してもらえるよう、大切な時間を一緒に過ごしていければと思います。そして、その思い出を大切にもらえたら嬉しいです。

テンポラリ小倉北

テンポラリ小倉北

子どもたちの幸せな将来の為、「今何が出来るのか」を
スタッフと共有しながら取り組んでいきたいと思います。

テンポラリ小倉北が開設して早4か月が経とうとしています。現在6名の女子が生活しています。徐々にアルバイトを開始したり、将来のために貯蓄を始めた子もいれば、過去に受けた傷が大きくなかなか前に進めない子もいます。現状では、基本的な生活基盤が整っていないため就労を安定させるのが難しいのではないかと感じています。

子どもたちの悩みを受け入れ、サポートできるよう常駐の心理士との時間を作り、本児の悩みや要望などを聞いたり、就労に関しては、若者サポートステーションなどの社会資源を活用しながら少しずつ前に進められるよう取り組んでいます。
思春期で、接し方や伝え方が難しいと感じることもありますが、子どもたちの幸せな将来の為、「今何が出来るのか」をスタッフと共有しながら取り組んでいきたいと思います。



子どもたちに自分の居場所を見つけ、人の温かみを感じながら少しずつ成長してもらいたいです。また、新型コロナウイルスの影響により大変な時期がありましたので、感染対策を徹底して、子どもたち・スタッフ一同、健康に留意しながら、楽しみながら生活していきたいと思います。

テンポラリ

テンポラリ

子どもたちの順応性の高さに
驚かされています。

朝夕にはかすかに秋の気配を感じるようになりました。
テンポラリでは、8月に退居と入居があり、少し慌ただしい日々が続いています。そんな中でも子どもたちは自分のペースを崩すことなく、日々を送っているように思います。新しい入居者とも上手にコミュニケーションを取り、一緒にゲームをする姿も見られます。そんな彼女らの順応性の高さに驚かされています。
夏の暑さからか、少し体調を崩す児童もいましたが、それぞれが自分の体と向き合いながら、毎日を無事に過ごしてくれています。相変わらずの暑さではありますが、その中でも少しずつ涼しさを感じられる時間帯も増え、季節が移り替わろうとしています。新しい場所に移動した子、新しく入居した子、そして変わらずテンポラリで日々を過ごしている子。それぞれの児童にとって、涼しげな風が吹いてくれることを願っています。



テンポラリ

中間 千彩希

テンポラリ

指導員

少しずつではありますが、
子どもたちと距離を縮めることができました。

未経験で入職し、はじめは子どもたちと関係を築いていけるかとても不安でした。入職後二カ月が経ち、子どもたちから日常会話だけでなく、悩み事の相談もしてくれるようになり、少しずつではありますが、距離を縮めることができました。

子どもたちと関わる中で、自分自身がどういう大人であるべきか。と考える機会もたくさんあり、私自身も学ばせていただいています。まだまだできないことや分からないことが多く、周りの職員の方々に助けていただければかりなので、少しでも早く成長できるよう頑張ります。



考える機会もたくさんあり、
私自身も学ばせて
いただいています。

Profile

福岡県福岡市出身
趣味は和太鼓。